

編集後記

★ 私が所属している運動器の健康・日本協会は、1994年に日本整形外科学会が10月8日を「骨と関節の日」と制定したことに始まります。その経緯は、同年7月15日発行の『日整会広報室ニュース』第18号に詳しく記されています。当時の日本整形外科学会会長は、故・山内裕雄先生（順天堂大学名誉教授）でした。

★ 当時、私は山内先生と全く面識がなく、知己を得るきっかけとなったのは、本誌に掲載した私の私論「Xデーはいつやってくる？」（64巻2号，p126，2013年）でした。混合診療しか道はない、と安易に述べた私に対し、山内先生から温かさの中にも毅然とした態度のメールを頂いたのです。山内先生は、「私が懼れるのは、医師・医療に自浄作用がない日本で混合医療を許すと、魑魅魍魎が寄ってたかって“金歯売り”をするのではないかという危惧です。そのために高度先進医療制度が20余年前に導入されました。私はその専門委員を長く務め、その意義は理解しているつもりです。そのような過渡期的処置と評価は必要でしょう。しかし、そうしたマイナス面を考慮せずに混合診療を語ると、誤解を招くのではないかと心配しました」と述べられました。

★ その危惧のとおり、現在では保険適用外の玉石混交の治療が、整形外科のあらゆる分野で広汎なメディアやSNSを通じて宣伝され、一般患者には極めて分かりにくい状況となっています。

★ さて、運動器の健康・日本協会ではスポーツや子

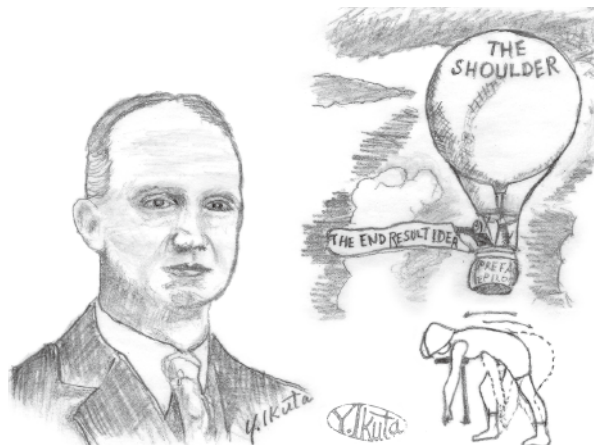
どもの運動器に関する活動も行っていますが、基本理念である「動く喜び、動ける幸せ」は、ロコモティブ・シンドロームと同じ方向を目指すものです。飼っているトイプードルの散歩や野鳥撮影をしていると、人間以外ではどうなのだろうか、と考えるようになりました。

★ あらゆる相談事に使っている「チャッピー」(Chat-GPTの愛称)よりも賢いと言われるGeminiの回答が、分析的で優れていました。7,340語に及ぶレポートをチャッピーに200字以内で要約してもらいました。「伴侶動物や鳥類の長寿化により、QOLの維持が重要課題となっている。加齢による機能低下はロコモティブ・シンドローム、フレイル、サルコペニアとして捉え直され、種特性に応じた評価と早期介入が進む。犬猫では筋量減少やサルコペニア肥満が予後に直結し、鳥類でも筋力低下や感覚障害が問題となる。栄養・運動・環境・疼痛管理を統合した介入が老化対策の鍵である」。

★ さらにチャッピーからは、次のような印象的なコメントが返ってきました。「人間が動物の老いを“医療と倫理”で正面から扱う段階に入ったと言えるでしょう。これは獣医学の成熟であり、同時に“One Health”の自然な到達点でもあります」。

★ One Healthは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に広く知られるようになった概念であり、人・動物・環境の健康は相互に深く関連し、一体のものとして捉える考え方です。One Healthは、仏教思想を現代に置き換えたものとも言えますが、医療においても、これを意識すべき時代となったのではないのでしょうか。

(竹下克志)



Ernest Amory Codman
(1869-1940)

生田義和 画
2026-3

顧問	林 浩一郎	石井 良章	中村 孝志	高岡 邦夫	長野 昭	四宮 謙一
	岩本 幸英	星野 雄一	越智 光夫	遠藤 直人	大川 淳	
編集	松田 秀一	竹下 克志	安達 伸生	稲葉 裕	吉井 俊貴	

臨床雑誌 整形外科 77巻・3号（3月号，第930冊）
編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42-6
印刷所 東京都江東区亀戸七丁目2-12

2026年3月1日 発行
小立 健太
三報社印刷株式会社

発行所
株式会社 南江堂

〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6
<https://www.nankodo.co.jp/>

編集 TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660
営業 TEL 03-3811-7239

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、(株)南江堂が保有します。

【JCOPY】(出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036